第６章　『活かす』

自転車活用の推進

公共交通との連携、観光・スポーツ振興、災害時の活用等に対応するため、比較的平坦な地形と地域の資源を活かして、健康の保持増進にもつながる自転車のより活用しやすいまちづくりを推進します。

１．公共交通との連携・補完

自転車と公共交通との連携による交通の利便性を向上させるため、交通結節点※1 の強化策として、駅まで自転車でアクセスして電車に乗り換える、または、拠点となるバス停まで自転車でアクセスしてバスに乗り換える「サイクル&ライド」の整備を推進していきます。また、通勤通学に加えて中心市街地や観光地、商業施設への移動の際、公共交通機関を補完する二次交通としての役割をはじめ、市街地の回遊性向上を目指して、レンタサイクル事業等の活用に取り組みます。

なお、これらの取組は、自動車による二酸化炭素排出量増加という課題に対し、自動車から自転車やバスへの利用転換を図り、自動車に過度に依存しない持続可能な交通環境の形成に寄与します。また、普段、自動車やバスでの移動を自転車での移動へ転換することは、身体活動の増加による生活習慣病の予防につながることから、健康寿命の延伸にも寄与します。

１－１．サイクル＆ライドの整備

（１）平塚駅周辺の駐輪場の整備（再掲）

自転車と公共交通との連携による交通の利便性を向上させるため、交通結節点の強化の取組として、平塚駅周辺の駐輪場の整備を推進していきます。

（２）サイクル＆バスライド施設の整備

バス利用に不便な地域があるという課題に対し、バス停付近の駐輪場（サイクル&バスライド※2）を設置することで、バス停の利用圏域が拡がり公共交通の利用が不便な地域の解消を図られ、自動車に過度に依存しない持続可能な交通環境の形成に寄与します。

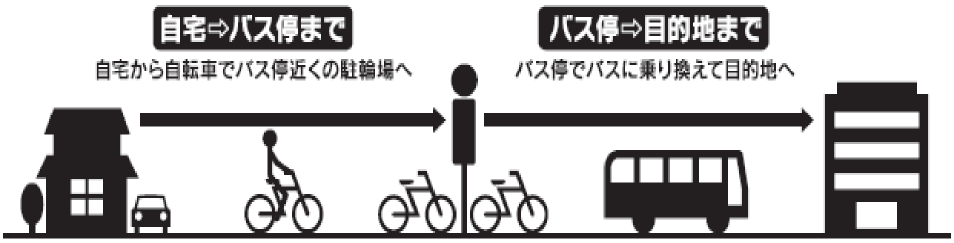
現在、市内９箇所のバス停付近の駐輪場は有効に利用され、高い効果を上げています。ただ一方では、長期間自転車が放置されるという運用上の課題や、さらには駐輪場が整備されていないバス停付近に自転車が放置されているなど、様々な課題があります。

これらの課題解決に向け、バス事業者等と連携し、サイクル＆バスライドの整備や駐輪マナーの向上等に取り組むことで、適正な整備・運用に努めていきます。

※1　交通結節点：異なる交通手段の接続が行われる場所であり、人や物の乗り換え等が行われる鉄道駅やバス停等

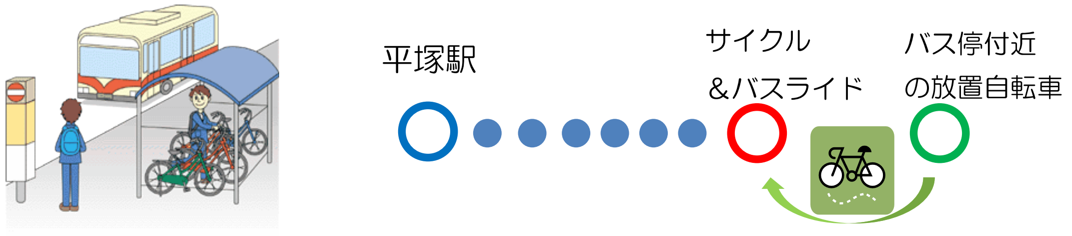
※２　サイクル&バスライド：自宅等からバス停まで自転車で行き、バス停付近の駐輪場に駐輪し、バスに乗り換えて目的地へ向かうシステム

サイクル&バスライドのイメージ



出典：国土交通省四国地方整備局　松山河川国道事務所ＨＰ

バス停付近の放置自転車解消イメージ



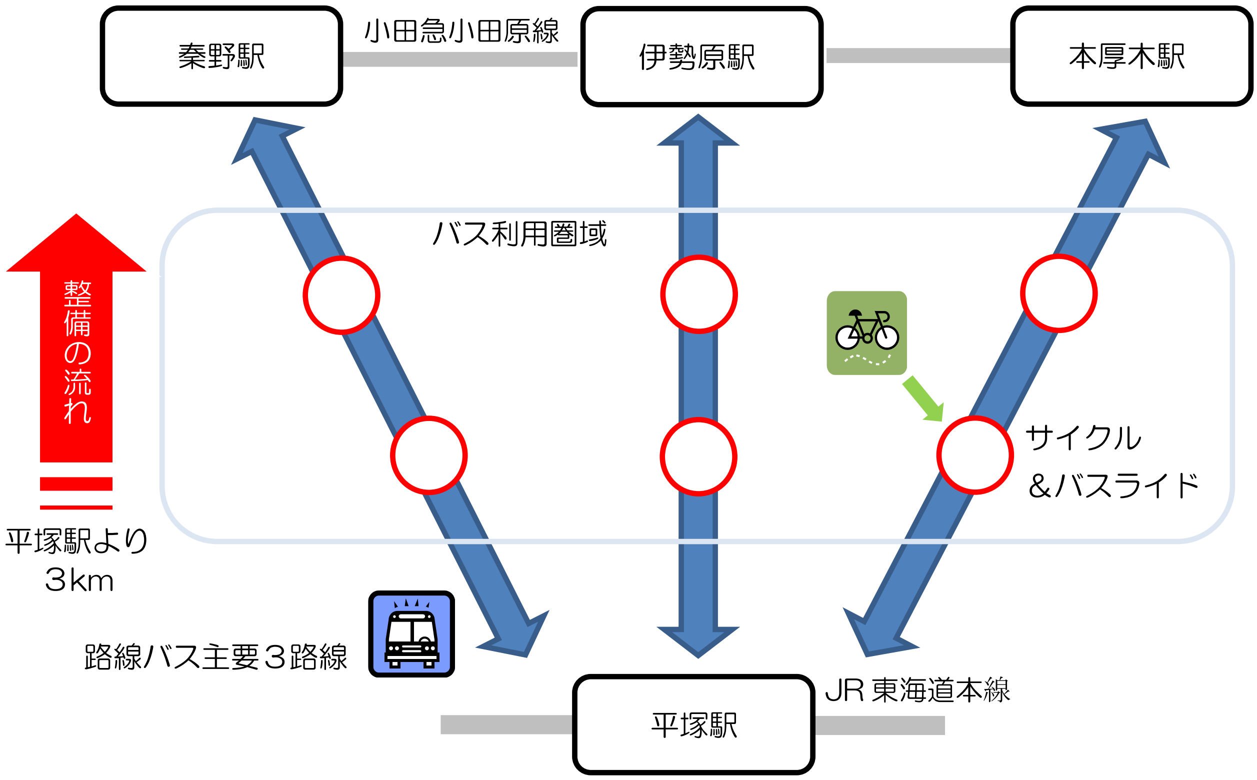
※　サイクル＆バスライドの整備は、放置自転車の解消にも期待ができます。

1 ）整備方針・優先順位の考え方

ア）整備方針

本市において比較的利用者の多い路線バス主要３路線（平塚駅と本厚木、伊勢原、秦野の各駅を結ぶ路線）の平塚駅より３km 以遠のバス停を対象とし、整備効果が高いと想定される条件から抽出・選定していき、優先順位を付けたうえで平塚駅３km 圏から外縁部へ向けて段階的に整備していきます。

整備方針のイメージ



整備効果が高いと想定される条件

①地域生活圏の形成が想定される

　該当条件：金融機関や商業施設、公共施設などの集積

　候補：『農協神田支所前、豊田本郷駅、南原土手』

②公共交通の不便な地域を背後に抱えている

　該当条件：公共交通の利用が不便な地域から最寄りのバス停

　候補：『柳の内、東橋、豊田本郷駅、大縄橋、北金目入口、片岡、長瀬、南原土手』

③バスの運行本数の多いバス停である

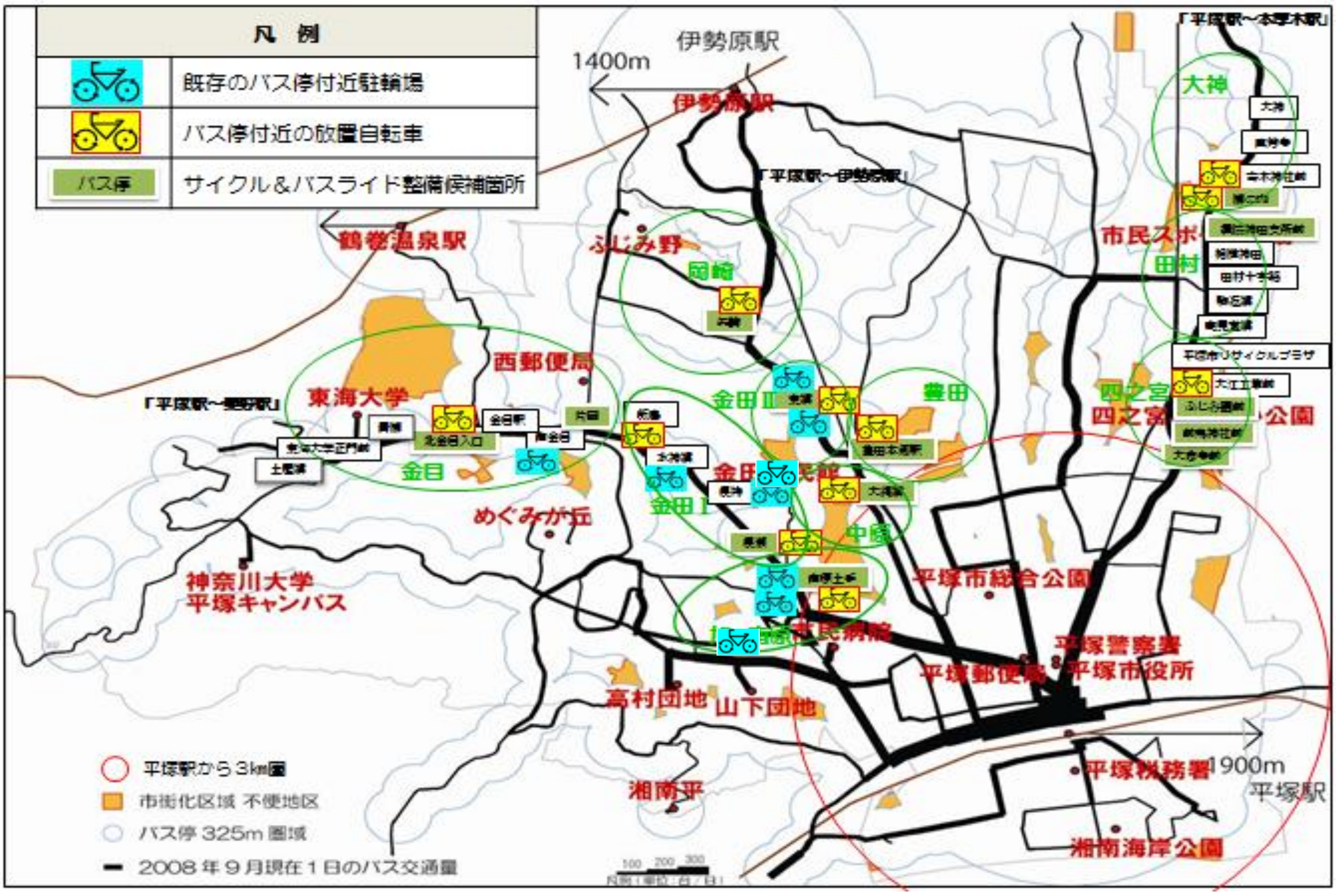
　該当条件：１０本以上/h の運行がある（朝７～８時）

　候補：『大念寺前、前鳥神社前、ふじみ園前、豊田本郷駅、東橋、矢崎、南原土手、長瀬』

サイクル＆バスライド整備候補箇所

「平塚～秦野」線	「平塚～伊勢原」線	「平塚～本厚木」線
南原土手①②③（整備済み）	豊田本郷駅①②③	大念寺前③
長瀬②③	東橋②③（整備済み）	前鳥神社前③
片岡②	大縄橋②	ふじみ園前③
北金目入口②	矢崎③	農協神田支所前①
		柳の内②

※（バス停名と①～③の条件）



イ）整備優先順位

原則として、整備効果の高い条件①～③の重複するバス停を整備優先の上位とします。

路線違いで優先度が同等の場合、既存の駐輪場が整備されていない路線を優先します。

（路線の順位は「平塚～本厚木」線、「平塚～伊勢原」線、「平塚～秦野」線の順）

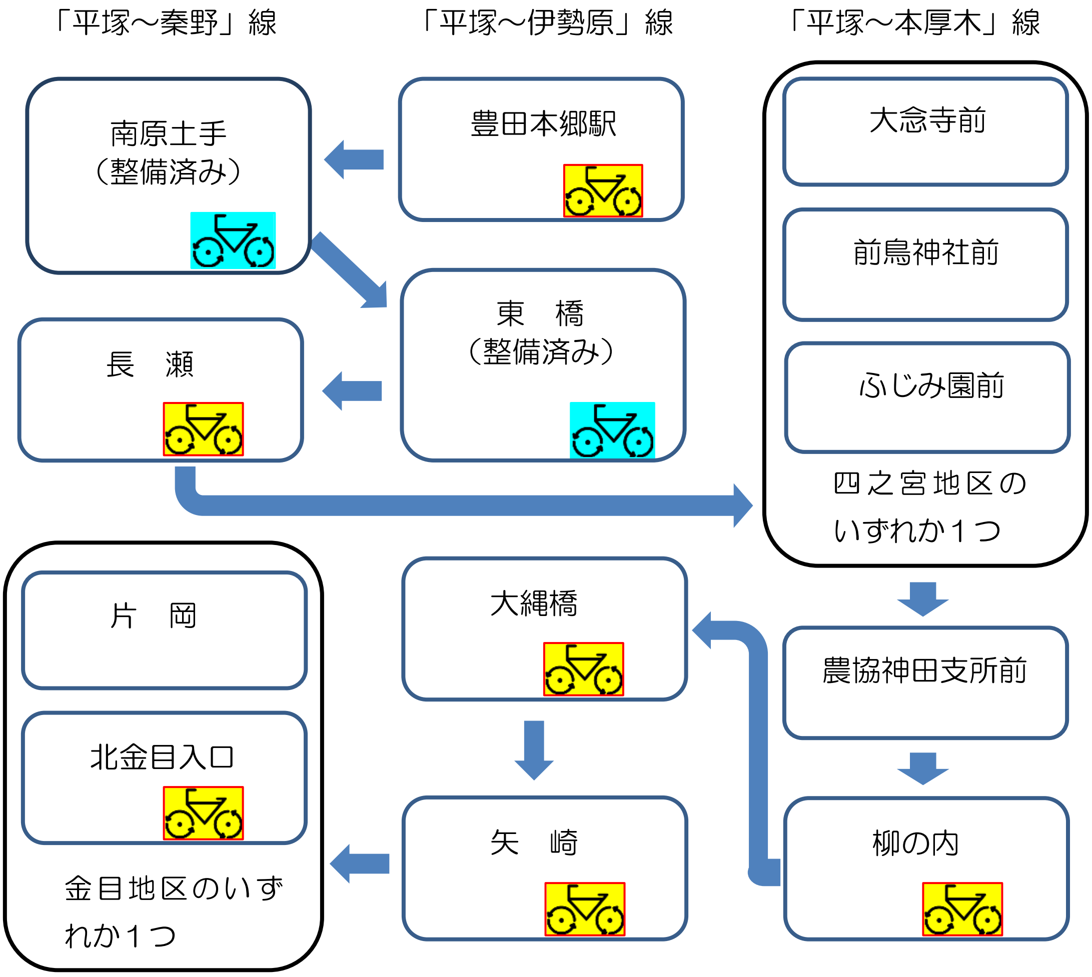
また、同じ路線で優先度が同等の場合、平塚駅に近い方を優先し、各地区に１つずつ駐輪場を整備することで、地区毎のバランスを保ち、段階的な整備を図っていきます。

上記、優先度から豊田本郷駅を最優先のバス停とし、以下のフロー順になりますが、用地交渉や周辺環境の変化等により順位は入れ替わることがあります。

また、同地区に複数候補がある場合は、いずれか１つ整備をしたら、次の地区へと移ります。

なお、既存のバス停付近駐輪場との整合性や放置自転車のあるバス停からの需要を誘導することを考慮し、無駄な整備費用を出さないよう効果的に進めていきます。

サイクル＆バスライド整備優先順位



凡　例	
（水色の自転車アイコン）	既存のバス停付近駐輪場
（黄色の自転車アイコン）	バス停付近の放置自転車

２）整備・運用にあたっての課題

サイクル&バスライドの整備・運用にあたっては、次のような課題があります。

①用地の確保（整備）	バス停との距離や適地の検討 地権者との用地交渉 道路占用等の法的課題の整理
②適正な管理（運用）	地域の協力 バス事業者等の協力 利用者のマナー

事業に着手する際は、まずは公共用地の有効活用を検討した上で、それが難しい場合は、民有地の借用や店舗駐車場の一部活用なども視野に、支援策等を含む店舗への働きかけなども検討します。

また、簡易ラックや案内看板の設置で利用しやすく放置されにくいようにするなど、適正な整備と管理運用について、地域やバス事業者等と連携して検討します。

用地確保の検討が考えられる公共用地の例

（水路の上部）

（高架下）

簡易ラックと案内看板の設置例（茅ケ崎市）

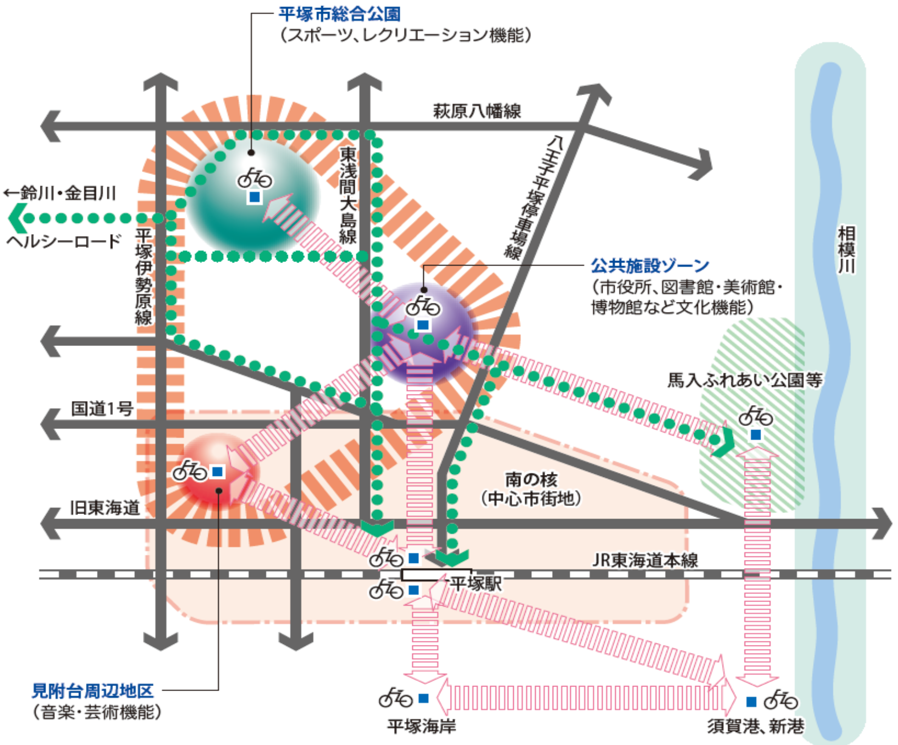
店舗等駐車場の一部活用例（青梅市）

１－２．「平塚型レンタサイクル事業」の実現

（１）事業の方針

市内唯一の鉄道駅である平塚駅と車で訪れる機会の多い総合公園周辺や市役所周辺の「ひらつかセントラルパーク」を基点とし、子どもや親子の利用に対応した貸出自転車の導入などと合わせ、本市の交通状況と利用者ニーズに合致した「平塚型レンタサイクル事業」の実現を目指します。

ひらつかセントラルパークに係わる取組みの方向性のイメージ



出典：平塚市都市マスタープラン（第２次）

（ア）平塚駅を基点としたネットワークの確立

本市では唯一の鉄道駅である平塚駅を基点として、公益財団法人平塚市まちづくり財団の運営によりレンタサイクル事業を実施しています。平塚駅周辺を含む本市の比較的平坦な地形からも、その特性を活かして、平塚駅から職場や学校への通勤通学に加えて、中心市街地や観光地、商業施設への移動など利用者ネットワークを確立していきます。

（イ）サイクルポート（貸出・返却・駐輪施設）の拡充

レンタサイクルは、１つのサイクルポート（自転車貸出施設）を中心に主に目的地までの往復利用を想定した交通手段であるのに対し、シェアサイクルは街中に相互利用可能な複数のサイクルポート（自転車貸出返却施設）を設置し、利用者がどのポートでも貸出、返却のできる交通手段になります。

今後、市内の施設に段階的にサイクルポートの設置を進めていきます。サイクルポートの機能については、シェアサイクルの手法を踏まえて施設ごとに検討します。

（ウ）「ひらつかセントラルパーク」を基点としたネットワークの確立

「平塚市都市マスタープラン（第２次）」に掲げる、総合公園周辺から市役所周辺や見附台周辺に通じるエリアである「ひらつかセントラルパーク」については、将来的にはそこを新たな基点として、中心市街地や馬入ふれあい公園、平塚海岸など、やや遠方にもネットワークを確立していきます。

（ア）～（ウ）を段階的に進め、目的地までの往復利用だけでなく、一つの基点から複数の施設や地域への展開が期待される新たなネットワークを確立することで、本市の交通状況等や利用者ニーズに合致した「平塚型レンタサイクル事業」を実現していきます。

このように拠点数を充実させていくことは、既存ニーズへの対応だけでなく、新たなニーズを誘発する相乗効果や、当該事業単独での収支健全化に直接的な好影響が期待できます。

（２）事業の進め方

市内唯一の鉄道駅であるＪＲ平塚駅における利便性の確保は当該事業の初期段階において必須であることから、まずは現在貸出拠点のない駅南側の整備を優先的に進めていきます。その後は、「（１）事業の方針」に基づきながら、いずれは市内全域において公共交通機関を補完する二次交通としての役割を担えるよう、ニーズのある区域から一定間隔内に拠点の整備を進めていきます。

また、現在実施している「湘南地域自転車観光推進協議会」の実証実験を通じて、本市を含む４市３町の広域において当該事業が成立するか、あるいは広域で不可能な場合でも本市単独で導入できる可能性があるか、またその価値があるのかを検証していきます。それと共に既存のレンタサイクル事業のニーズの検証も、データ収集のノウハウに実績がある、「湘南地域自転車観光推進協議会」の協働事業者からデータ提供を受けて、本市が行うものとします。

これらの結果を基に、本市とレンタサイクル事業の実施主体である公益財団法人平塚市まちづくり財団との間で定期的に協議の場を設け、利用ニーズに対応した貸出、返却方法やサイクルポートの設置などの運営方法について、費用対効果も踏まえながら検討します。

★湘南地域シェアサイクル実証実験の取組状況★

（引用：湘南地域自転車観光推進協議会資料）

（引用：平塚市ホームページ）

※　実証実験中の事業用地については、当該事業の具体的な実施は基本的に民間事業者が中心となって行うものであると考え、民有地を第一優先としています。しかしながら、利用者から貸出返却のニーズが見込める区域において民有地に適所がない場合、公有地利用を検討しています。実証実験終了後も当該事業の継続性や価値が認められる場合は、引き続き公有地の貸し出しについて検討していきます。

（3）複数事業者の整理

　複数事業者による参入が既に試みられていることから、次のように事業者の共存性について整理します。

①複数の事業者の共存について

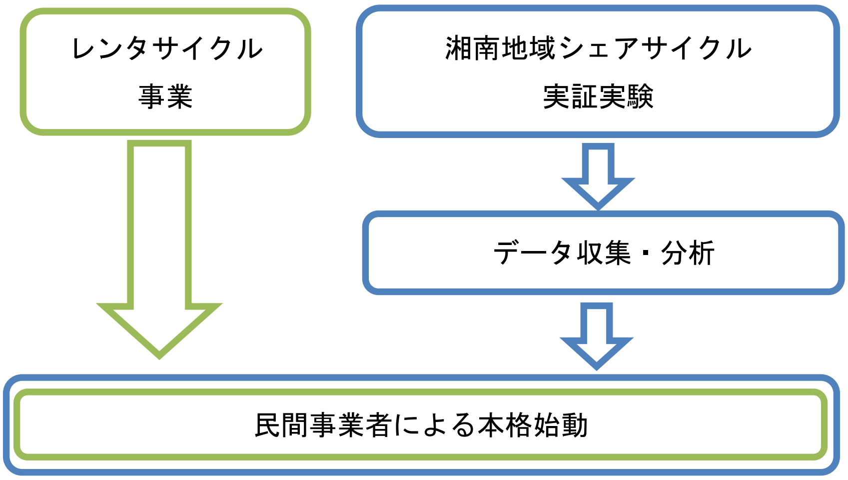
　特異性や価格の面で利用者に利点をもたらすため、事業者同士の競争は必要なものと考えますが、一方でプラットフォームの違いから利用者に混乱をもたらすことがあります。

　本市では、来訪者への配慮の観点から、プラットフォームの単一化は望ましいものと考えますが、現段階にあっては、それぞれの事業の可能性を探るために、複数事業者の共存もあるものと整理します。

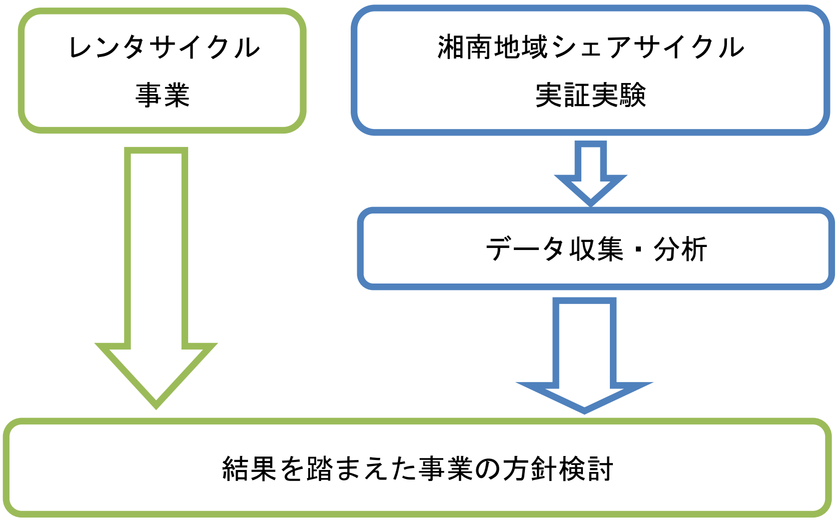
②既存レンタサイクル事業との「湘南地域シェアサイクル実証実験」の整理

　既存レンタサイクル事業と「湘南地域シェアサイクル実証実験」の整理は次の図解のとおりとします。

図解１	他の民間事業者（湘南地域シェアサイクル実証実験事業の協働事業者等）が当該事業に本格参入し、その事業について本市と協力体制が築け、「平塚型レンタサイクル事業」の方針を踏襲したうえで持続可能な事業が可能であると判断できる場合



図解２	他の民間事業者（湘南地域シェアサイクル実証実験事業の協働事業者等）が本格参入不可能、あるいは「平塚型レンタサイクル事業」の方針を踏襲できない場合



２．自転車を活かした観光・スポーツの振興と健康の保持増進

自転車は、通勤、通学、買い物等の日常生活に幅広く利用されているほか、健康意識の高まりから、観光・スポーツのレクリエーションツールとする等、利用者の多様化が進んでいます。

自転車を活かした観光・スポーツの振興として、「観光地と連携したサイクリング環境の整備」や「サイクルスポーツの振興」の取組を推進することにより、自転車のより活用しやすいまちづくりと市民の健康の保持増進に寄与します。

２－１．観光と連携したサイクリング環境の整備

市民をはじめ来訪者の方々に、本市の魅力に触れてもらうためには、観光地や公共施設等を繋ぎ、回遊性を持たせることが必要です。本市は比較的平坦な地形であることから、自転車を活かした観光振興を図るため、サイクリングロードの整備や観光地等のサイクリング環境の整備、さらに、観光情報を発信する取組を推進していきます。

また、平塚型レンタサイクル事業を実現することで周遊観光を促進していきます。

（１）サイクリングロード等の整備・改善

- 快適で安心して利用できるサイクリング環境を創出するため、レクリエーションの自転車ネットワーク（金目川サイクリングコース、太平洋岸自転車道等）の整備・改善について、関係機関と連携して検討します。
- レクリエーションの自転車ネットワークと連絡する日常の自転車ネットワーク路線の整備時期は、路線ごとに周辺のまちづくりの進捗や利用者のニーズなどを踏まえ関係機関と連携して検討します。

※　日常の自転車ネットワークの整備後に、段階的にレクリエーションの自転車ネットワーク路線の整備を拡げていきます。（再掲）

★取組事例★

～サイクリングコースの先駆け　金目川サイクリングコース～

金目川青少年サイクリングコースは、昭和４２年１０月に完成した全国初のサイクリングコースです。国道１３４号の花水川橋から金目川や鈴川の西側をさかのぼり、全長は約１３km あります。現在では、サイクリングのほか、散歩や通勤・通学など、多くの方が利用していて、春の桜や初夏の新緑のほか、のどかな田園風景、富士山・大山の眺望など、豊かな自然を感じながらサイクリングができます。

～バラ香るサイクリング～

５月は市内各所でバラが咲きます。

自転車でのバラの名所巡りもおすすめです。

〈各所〉①花菜ガーデン
②平塚市総合公園
③パイロット通り
④旧横浜ゴム平塚製造所記念館
⑤ホテルサンライフガーデン
⑥平塚駅南口

（引用：広報ひらつか　第１０３０号　２０１５年５月１日発行）

★国や県等の取組★

～太平洋岸自転車道～

太平洋岸自転車道※1において、国土交通省をはじめ神奈川県や沿線の関係行政機関では、誰もが安全・快適に走行できる走行環境や、休憩できる受入環境等の整備を進め、新たに創設されたナショナルサイクルルート制度※2の指定を目指しています。

※1　千葉県銚子市から神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県の各太平洋岸を走り、和歌山県和歌山市に至る延長1,400km の自転車道

※2　自転車活用推進法に基づき、自転車と通じて優れた観光資源を有機的に連携するサイクルツーリズムの推進により、日本における新たな観光価値を創造し、地域の想定を図るため、令和元年９月９日に自転車活用推進本部において創設

（引用：国土交通省ホームページ、神奈川県自転車活用推進計画）

（２）観光拠点等における自転車関連施設の整備

- 周遊観光を促進するため、観光地の入口となる駅、市内各所の観光拠点や商業施設等への自転車駐車場（サイクルポート、サイクルラックを含む）の設置について、土地利用の状況や利用者ニーズを踏まえて、関係機関、関係団体と連携して検討します。

★太平洋岸自転車道周辺の主な観光スポット★

～湘南海岸公園～

運動広場や湘南海岸公園プール、ボードウォークのある湘南ひらつかビーチパークがあります。

休日には憩いを求める家族連れや若者たちの海浜レジャーの場として利用されています。

～高麗山公園（湘南平）～

湘南平は、「かながわの景勝５０選」、「かながわの公園５０選」、「かながわの花の名所１００選」、「夜景１００選」、「平塚八景」など多くの指定を受けています。高麗山公園レストハウスの展望台から、相模湾や富士山をはじめとする近隣の山々（箱根連山、丹沢山塊、大山など）の眺望が楽しめるため、年間を通して多くの方で賑わいます。

近年、サイクリストの利用も見られることから、サイクルラックを設置しています。

（引用：平塚市ホームページ）

★新たなまちづくり★

～ひらつか海岸エリア魅力アップチャレンジ～

本市の海岸エリアでは、湘南海岸公園をはじめ、龍城ケ丘プールの跡地やビーチパークなど、それぞれのコンセプトによる魅力アップを図り、安心、安全で楽しみいっぱいの、誰もが「訪れたい、暮らしたい」と思うようなまちづくりが進められています。

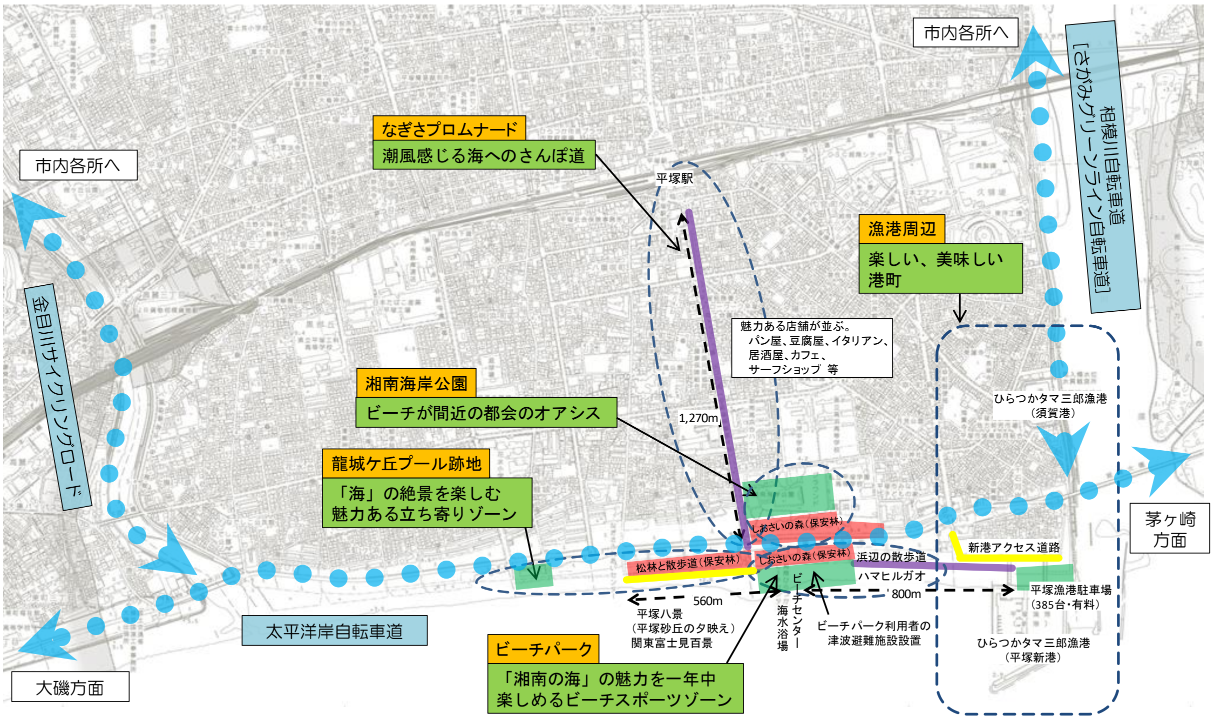
その中で、龍城ケ丘プール跡地は、コンセプトを「海の絶景を楽しむ魅力ある立ち寄りゾーン」とし、方向性の一つに「観光やイベントの情報発信をして、回遊性を持たせる」ことを掲げ、徒歩だけでなく自転車利用等も視野に入れて、海岸エリアと他の場所との回遊性を向上する取組を進めるものとしています。

〈自転車による回遊のイメージ〉

新港⇔ビーチパーク⇔龍城ケ丘プール跡地周辺⇔（金目川の自転車道）⇔花菜ガーデン⇔平塚市総合公園など、市内各所と結ぶ

〈自転車関連施設のイメージ〉

- 自転車駐車場の設置、サイクルポート設置の検討
- 国道１３４号のサイクリング利用者の休憩場所としての利用に配慮　等



ひらつか海岸エリア魅力アップチャレンジのエリアとその周辺の自転車道等※

※「ひらつか海岸エリア　魅力アップチャレンジ」の資料により図面を作成。自転車道（計画含む）及びサイクリングロードは、本計画で新たに標示したもの

（引用：湘南海岸公園龍城ケ丘ゾーン整備・管理運営事業公募設置等指針　令和元年８月　平塚市）

（３）サイクリング環境の情報発信

・市民や来訪者へ広く周知するため、観光マップやポータルサイトにより、サイクリングロードなどの観光情報のさらなる発信に努めます。

★取組事例★
～湘南ひらつか観光マップ～
　ポケットサイズのガイドマップに多くの写真を使い、平塚の魅力がぎっしりと詰め込まれていて、サイクリングロードも掲載されています。

・配布場所　平塚市観光協会、市役所本館、地区公民館等

湘南ひらつか観光マップ２０１８年３月改訂版

（引用：平塚市ホームページ、湘南ひらつかナビ　平塚市観光協会の観光情報サイト）

★取組事例★
～ひらつかスポーツナビ※～
　平塚のスポーツ情報を一元化して提供するポータルサイトです。「いつでも、どこでも、気軽に」スポーツ情報が得られることで、スポーツ活動を活発化させ、心身ともに健康で長寿な市民が活気あふれるまちを目指しています。当該サイトには「湘南平塚サイクリングマップ」のページがあり、サイクリングロードのコース、観光各所、距離、標高差、斜度、想定所用時間等の情報が掲載されています。

金目川サイクリングコースのページ

※　平塚市及び認定ＮＰＯ法人湘南ふじさわシニアネットの協働運営サイト

（引用：ひらつかスポーツナビ「湘南平塚サイクリングマップ」ページ）

ＱＲコード

★取組事例★
～ひらつかわくわくマップ～
　平塚市の子育て、防災、経済活動、生活情報などの様々な地図情報が、インターネット上で見られるサービスです。生活情報には、自転車関連のページも掲載されています。

わくわくマップ「自転車」のページ

（引用：平塚市ホームページ、ひらつかわくわくマップ）

（４）観光地の回遊性向上

・観光地の回遊性を向上させ、市民や来訪者の周遊観光を促進するため、「平塚型レンタサイクル事業」、「サイクリングロード等の整備・改善」、「観光拠点における自転車関連施設の整備」、「サイクリング環境の情報発信」等の取組を推進していきます。

★本市のレンタサイクル★

★湘南地域シェアサイクル実証実験★（再掲）

（引用：湘南地域自転車観光推進協議会資料）

（引用：平塚市ホームページ）

２－２．サイクルスポーツの振興

スポーツを行うことは、健康・体力づくりの推進につながり、生活習慣病の予防や医療費の抑制等の様々な効果が期待されます。自転車を活用したスポーツの活性化や裾野拡大のため、サイクリングロードや競輪場等を活かし、関係機関や競輪場等の関係団体と連携したサイクルスポーツの振興の取組を推進していきます。

（１）競輪事業と連携したサイクルスポーツの普及・振興

- サイクルツーリズムを推進する企業・団体、行政機関等の連携による自転車を活用したサイクルイベント等の開催を検討します。
- サイクルスポーツを身近で慣れ親しむことができるように、市民総合体育大会の自転車競技等、市民への競輪場の開放を検討します。

★取組事例★

～湘南バイシクル・フェス～

平塚競輪場は、競輪開催日はプロ選手のレース観戦として、非開催日は市民や市外の多くの方が交流できる各種イベント会場としての施設活用が図られています。

自転車を活用したイベントの例として、湘南バイシクル・フェス※があります。自転車メーカー各社によるブース出展、無料で参加できる最新の自転車の試乗会、自転車グッズなどがあたる抽選会など様々なコンテンツを楽しめるイベントとして、これまで関係団体との連携のもと開催されてきました。

※　主催：ＮＰＯ法人湘南ベルマーレスポーツクラブ
後援：経済産業省、（公財）ＪＫＡ、平塚市、（公財）平塚市まちづくり財団、（株）湘南ベルマーレ

（引用：平塚市ホームページ）

★取組事例★

～リトアニア共和国のホストタウンとしての取組（自転車競技関係）～

東京２０２０オリンピック・パラリンピックに向けて、本市は神奈川県との共同申請により、平成２８年１月２６日にリトアニア共和国のホストタウン※として登録を受けました。これを契機に、スポーツのみならず文化や教育、経済など様々な分野における交流を同国と行っています。

令和元年８月には、リトアニア共和国の自転車競技（トラック）のナショナルチームが来日し、東京２０２０オリンピックの事前キャンプに先駆けて、平塚競輪場でテストトレーニングを行うほか、自転車教室を開催するなど、市民との交流が行われました。

※　２０２０年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方自治体を、内閣官房が登録するものです。

（引用：平塚市ホームページ）

３．災害時における自転車の活用

３－１．災害時に備えた自転車配備と活用方法

災害時に備えた自転車の配備を推進します。また、災害発生後の被災状況の把握などに、気象状況や道路の被災状況等を考慮した自転車の活用を検討します。

（１）取組内容

- 防災資機材として、小中学校等の避難所への自転車の備蓄を推進します。
- 神奈川県自転車商協同組合と締結した応急物資及び生活必需物資の調達に関する協定に基づき、災害時に市が使用する自転車を確保します。
- 情報収集用としての郵便集配用自転車等の提供及び災害情報の相互提供（災害時における覚書）により、自転車を活用します。
- 職員の参集時、被災状況等の情報収集及び情報伝達、物資の配送時などにおける自転車の活用を検討します。

★取組事例★
～防災資機材としての自転車の備蓄状況～